

わらびて

125号



鞴羽口 (左上2点)、鍛冶滓 (右上4点)、鉄鉗 (中央下)、轡 (中央)

● 石田 I・II 遺跡から出土した鉄関連遺物

主な内容

- 復興事業に伴う埋蔵文化財調査について
- 県内遺跡発掘調査情報
柳之御所遺跡
御所野遺跡
- 今年度の発掘調査を振り返る
- 東日本大震災と平泉の世界遺産登録

石田 I・II 遺跡は、奥州市胆沢区南都田字石田地内に所在し、JR水沢駅から西に約3.8km、国指定史跡の角塚古墳からは東に約1.2kmに位置します。石田 I・II 遺跡では、古墳時代中期～後期の遺構・遺物が多数見つかりました。このうち、鉄に関連する遺物をご紹介します。写真は古墳時代のなかでも7世紀末頃の遺物で、^{ふいこほぐち}鞴羽口、^{かじさい}鍛冶滓、^{かねはし}鉄鉗、^{くつわ}轡です。鞴羽口は鍛冶炉に風を送り込む装置の部品で、送风管と考えられています。鍛冶滓は鍛冶作業で出てきた不純物の塊で、いわば古代の産業廃棄物です。鉄鉗は、鍛冶作業で熱せられた素材を挟む道具です。現代のペンチと同じような形をしています。轡は、馬を制御する装具で、幾つかの部品によって構成されますが、遺跡からは馬の口^{くわ}に銜えさせる銜^{はみ}もしくは引手の一部が出土しました。完成品は両端が環状になっていますが、本資料は片方の環が欠損しています。轡の存在は、馬の飼養が行われていたかを考える上で手掛かりとなります。

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 米田 寛

【所報名について】 「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこうよばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

復興事業に伴う埋蔵文化財調査について

1. 震災復興に伴う埋蔵文化財調査

東日本大震災及び津波が発生して、早11ヶ月が過ぎようとしています。それぞれの市町村では復興計画の策定、復興事業等が具体化しつつあります。この復興事業に係る開発計画に先立っての埋蔵文化財調査が今後しばらくの間、増えてくるものと想定しております。

2. 沿岸市町村における遺跡立地の状況

震災が発生した3月11日以後に各方面で発表された諸資料を使って、岩手県遺跡基本図に浸水域を重ね合わせてみた結果は、以下のとおりです。

- 沿岸市町村所在遺跡総数…………… 3,612 箇所
- 冠水した遺跡数 ……………… 241 (7%)
- 被害が確認されていない遺跡 3,371 (93%)

※ 遺跡数は平成23年3月現在の数

ほとんどの遺跡が立地していた場所までは、今回の津波は届かなかったことがわかりました。

3. 内陸部の地震による被害

これまで、県立博物館、県埋蔵文化財センターをはじめとして、県内市町村教育委員会の職員のみなさんの御協力を得ながら、津波で被災した出土遺物の回収を年度初めに実施しました。今まであまり紹介をしてはおりませんでしたが、内陸部でも、3月11日の本震、4月7日の余震によって、史跡に大きな影響が見られたところを1箇所報告したいと思います。

それは、住田町にあります県指定史跡の栗木鉄山跡です。栗木鉄山は、明治から大正にかけて操業し、大正9年に閉鎖されております。この栗木鉄山跡の石組みが、地震によって大きく崩落した様子が次の写真です。



(4月中旬当課撮影)

この石垣は住田町が修復し、現在は元の状態に戻っています。

また、下の写真は、陸前高田市の本宿館から隣接する熊野神社を東側から撮影した写真です。本宿館は、神社移設用地となることから、昨年度から地元教委員会が調査を実施した遺跡です。地割れが大きく入り、神社社殿脇の南側法面は、激しく崩落しておりました。



東側から社殿を臨む



社殿南側法面崩落の様子

今後は、私たちが気づいていない被害を受けた遺跡が報告される可能性もあると思っております。

4. 今後の埋蔵文化財調査について

復興計画が事業化され、開発事業が計画されると埋蔵文化財調査が発生してきます。昨年度新聞を賑わせた「遺跡が復興の壁」といった話題は、時として人々の口にのぼることがあります。「早く道路を通して欲しい。遺跡調査を簡素化して欲しい。」「遺跡調査は何かならないものか。」など、埋蔵文化財に携わる私たちにとって、身につまされる思いがあります。

さて、県内市町村では復興に伴う個人住宅建設に伴う発掘調査が、始まっております。



榎内Ⅰ遺跡 (宮古市)

今後は、写真のような個人住宅建設の他、市町村公共事業に伴う調査などが多くなるものと見込まれます。また、県全体においては、大規模な事業として挙げられるのは、いわゆる復興道路として位置づけられている三陸沿岸道路の新規事業区間122km、宮古盛岡横断道路新規区間48km、東北横断自動車道新規区間（遠野～住田、釜石西～釜石ジャンクション）の17kmです。三陸沿岸道路内には、現在のところ100箇所ほどの遺跡があることがわかり、これから現地を踏査する分布調査が控えております。

また、復興事業に関する分布調査はすでに始まっております。釜石市唐丹地区にある小白浜漁港の防潮堤を津波が乗り越え、住宅地まで冠水したため、新たに築く防潮堤が、中世城館である伝城の一部に及ぶことから、分布調査を依頼されたものです。今後は、このような調査は爆発的に増加するものと思われま



埋蔵文化財調査は、決して復興事業に水をさすものではなく、復興した「まち」にとって、それからの地域の宝となる情報を、数多く未来へ提供する極めて有用なものであることを、地域を支えてきた先人たちの目に見えぬ想いを酌み取り、そして、後世の人々に伝えていくものであることを強く信じ、筆をおきたいと思

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課 菅 常久

県内遺跡発掘調査情報

■ 柳之御所遺跡の近年の調査成果

柳之御所遺跡は奥州藤原氏の政庁「平泉館」と考えられている遺跡です。緊急調査により遺跡の重要性が明らかになり、国史跡に指定されました。現在は堀に囲まれた範囲を柳之御所史跡公園として公開しているほか、隣接する柳之御所資料館では重要文化財に指定された資料などを見学できます。

遺跡は堀跡によって区画され、その内部と外部では様相が異なることが確認されています。これまでは、現在公園として整備されている堀内部を主な対象に調査を行ってきました。この範囲では、ほぼ発掘調査を終了し、大型の掘立柱建物や池跡を確認しています。

これらの成果をうけて、近年は未解明の部分が多い堀跡の周辺の調査を行っています。遺跡南端部では、2条の堀跡を確認し、幅14mで深さ4mほどの内側の堀跡が、幅4mで深さ2mほどの外側の堀跡よりも新しいことを確認しています。この部分では内側の堀にかかる橋跡が確認されているほか、橋の部材も多く出土しています。12世紀代の橋跡の遺構と部材が確認された遺跡は全国的にも少なく、貴重な事例です。

昨年度と今年度は遺跡北端部を調査し、この範囲でも2条の堀跡を確認しました。規模

は南端部とほぼ同規模で、内側の堀跡が大きく外側の堀跡がその半分程度の大きさです。北端部の範囲では2条の堀跡では堆積している土層の状況が異なるため、時期差が想定できますが、平行して走るため遺構の関係からは明確には時期差を捉えられていません。遺物の様相や、周囲の遺構状況から検討していきたいと考えています。また、中尊寺方向へと向かう道路跡が堀外部で確認されており、堀内部でも道路跡が確認されていることから、この周囲に両者を結ぶ橋などの施設の存在が考えられます。今年度の調査範囲でも堀跡付近で柱穴や土坑を確認しているほか、道路跡の可能性のある溝跡も見つかっています。これらは中尊寺と居館である柳之御所遺跡をつなぐ重要な手がかりとなるもので、今後の調査で橋跡や道路跡の位置を明確にしていきたいと考えています。

柳之御所遺跡では70回を超える発掘調査が行われていますが、遺跡内の遺構変遷など課題もあります。今後は調査を継続しつつ、堀内部のこれまでの調査成果をまとめたいと考えています。あわせて堀外部や遺跡の周辺を含めた整備を検討していく予定です。



遺跡南端部の状況



遺跡北端部の堀跡の状況

岩手県平泉遺跡群調査事務所 櫻井友梓・村田 淳

県内遺跡発掘調査情報

■ 縄文時代中期の集落

御所野遺跡は、一戸町の中心部の南東、馬淵川東岸に位置し、東西方向に細長く突き出した標高190～200mの段丘上に立地しています。

平成元年から行われている発掘調査によって、この東西に細長い段丘上のほぼ全面に縄文時代中期後半（約4,500～4,000年前）の集落が広がっていることが確認されています。このうち、遺跡の中央付近には配石遺構が広がり、その周囲からは掘立柱建物跡が確認されています。これらの下からは、数多くの竪穴住居跡や土坑、柱穴などが見つかっています。その南側に広がると考えられているのが「盛土遺構」です。



盛土遺構から配石遺構を望む(南から)

一戸町教育委員会では、平成21～23年度にわたって、この「盛土遺構」の形成過程や性格を明らかにすることを目的とした発掘調査を行いました。

「盛土遺構」が位置する場所は、南側は高く、配石遺構が広がる北側に向かって少しずつ低くなっており、もともとゆるやかな斜面であることがわかりました。この地形に沿って、少量の縄文土器片や炭化物などを含む、黒褐色土層と黄褐色土層が堆積していることを確認しました。これらの土層は、人為堆積

—— 史跡 御所野遺跡（一戸町） ——

したものと考えられます。

さらに、これらの土層を掘り込んで、数多くの竪穴住居跡などの遺構がつくられている様子を確認しました。竪穴住居跡は、人為的に埋め戻されており、埋土からは多くの遺物（縄文土器・石器・剥片・チップ・炭化材・炭化種実・骨片など）が出土しました。出土した縄文土器は、中期後半のものが多く、竪穴住居跡もこの時期のものと考えられます。

今後は、人為堆積層の性格や配石遺構との関係を検討していくことが課題です。

また、平成23年度には、縄文時代中期末葉の焼失住居跡を復元した土屋根の竪穴住居の修理も行いました。発掘調査時の図面に基づき検討を重ね、住居の掘り込みの深さ、桁や叉首の位置や組み方を変更したことによって、屋根の傾斜や屋根にのせる土の量も大きく変わりました。

世界遺産登録を目指し、今後も御所野に生きた縄文時代の人々の暮らしをより一層明らかにしていくための調査や研究を進めるとともに、遺跡周辺の植生復元や復元建物の検証なども継続していく予定です。



復元された土屋根の竪穴住居

御所野縄文博物館 菅野紀子

今年度の発掘調査を振り返る

平成23年度に岩手県内で(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った発掘調査を振り返ってみました。

平成23年度の調査について

平成23年度の発掘調査は28遺跡29件、114,622㎡に着手しました。東日本大震災という惨事により調査の着手が危ぶまれましたが、ほぼ1月遅れで開始されました。8市が対象となり、関係者のご協力を得て、約1月遅れで終了しました。来年度に継続する遺跡もありますが、調査成果の一部を時代別に紹介します。

1. 旧石器時代

奥州市中畑城跡から後期旧石器が発見されました。剥片3点ほどです。

2. 縄文時代

盛岡市芋田沢田Ⅳ遺跡・鶴飼遺跡、北上市千苺遺跡、奥州市大平野Ⅱ遺跡・田高Ⅱ遺跡、遠野市大畑Ⅲ遺跡・新田Ⅱ遺跡などで、集落跡や土器等を捨てた遺物包含層が見つかりました。

芋田沢田Ⅳ遺跡では、昨年続き早期(約8,000年前)の住居跡が多数検出され、その時代の拠点集落となっていたようです。



千苺遺跡 中期住居群

鶴飼遺跡では、後期(約3,500年前)の住居跡とその後に作られたおとし穴が多く見つかかり、集落利用の後、狩場として利用されたようです。

千苺遺跡は、北上川の西側に形成された自然堤防上に立地しています。中期と晩期(約2,500年前)の住居跡と多数の柱穴が見つかりました。住居跡は砂地の中に作られていて、壁も床も崩れやすく、形状不明瞭の物もありました。来年度も継続して調査を行います。

大平野Ⅱ遺跡では、中期末～後期(約4,000～3,500前)にかけての集落が、小さな沢に沿って見つかりました。広大な遺跡内での場所の使い分けが明確になってきました。

田高Ⅱ遺跡からも住居跡1棟と遺物包含層から前期(約5,000年前)の土器が10箱、石器9箱等が出ています。

大畑Ⅲ遺跡からは中期後葉～末葉の住居跡17棟や土坑25基などが見つかり、まとまった集落跡だったことが分かりました。



大畑Ⅲ遺跡 住居跡

新田Ⅱ遺跡からは、西寄りの沢沿いから大量の遺物包含層が見つかりました。土器や石器50箱・木の実1箱等を回収しましたが、量が

多く、来年度も調査を継続する事になりました。

3. 弥生時代

宮古市佐原Ⅱ遺跡から少し時期の異なる住居跡2棟が、重なって発見されました。



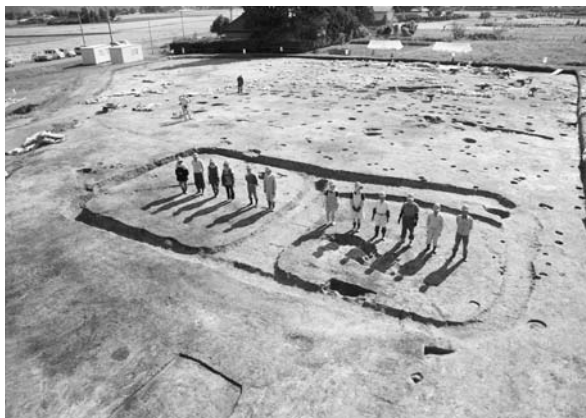
佐原Ⅱ遺跡 弥生時代住居跡

4. 古墳時代

奥州市にある日本最北の前方後円墳「角塚古墳」の北東側にある石田Ⅰ・Ⅱ遺跡から集落跡が、その西側の沢田遺跡から墓跡が見つかりました。「角塚古墳」を作った人々が近くに集落を作っていたことが分かりました。来年度も調査を継続します。

5. 奈良・平安時代

奥州市の石田Ⅰ・Ⅱ遺跡・堤遺跡・作屋敷遺跡・古城林遺跡・安久沢東遺跡、盛岡市の二又遺跡・飯岡才川遺跡、花巻市中嶋遺跡等があります。石田Ⅰ・Ⅱ遺跡の周辺では時代を追って集落が拡大していったようです。古城林遺跡



古城林遺跡 円形周溝墓

からは円形周溝墓も見つかっています。二又遺跡からは竪穴住居跡12棟と、直径1m近い柱穴で造られた建物跡が見つかりました。

6. 中世

奥州市中畑城跡・古城林遺跡・安久沢東遺跡・田高Ⅱ遺跡、二戸市不動館跡などから見つかっています。

平泉文化の広がりを示す12世紀後半の遺物を伴う建物跡・井戸跡・溝などが古城林遺跡や安久沢東遺跡・田高Ⅱ遺跡などから発見されています。

中畑城跡は、檜山氏の城館跡とされ、複数ある外堀は格子状に仕切られた障子堀という珍しい形式であることがわかりました。



中畑城跡 障子堀

不動館跡からは、深い空堀に囲まれた主郭とその中に作られた住居跡・工房などが見つかり、険しい山城の緊張した様子が感じられました。

7. 近世

盛岡市矢盛遺跡・二又遺跡・笹平遺跡、奥州市堤遺跡などから見つかっています。

矢盛遺跡では建物跡3棟や溝跡など、笹平遺跡からは側溝を伴う道路跡が見つかりました。

紹介した遺跡以外でも、多くの遺構や遺物を調査しました。これらの成果は、それぞれ地域の歴史を解明するために欠くことのできない貴重な資料となります。今後報告書の中で明らかにしていきます。

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
佐々木清文

東日本大震災と平泉の世界文化遺産登録

東日本大震災

昨年3月11日にマグニチュード9の東日本太平洋沖地震とそれに伴う大津波が発生し、多くの人命や人々の日々の生活の場が失われました。東日本大震災の発生です。

一方、6月29日に平泉の文化遺産（「平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」）が世界遺産一覧表に正式記載され、複雑ではありましたが喜ばしいことでした。

平成23年度は東日本大震災への対応のため、例年行われていた「埋蔵文化財展」と「埋蔵文化財公開講座」は開催することができませんでした。来年度以降については、両方とも開催できる見込みです。

文化財レスキュー

東日本大震災への対応のため上記の事業はできなくなってしまいました。代わりに震災にあった文化財を回収し、海水を洗い流し保管管理することが当面必要なこととして出てきました。それが「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」です。考古資料・民俗資料・文献資料など回収できるものは回収して洗浄等を行い、建物や遺跡自体など不動産的なものは応急的な手



大槌町から運ばれた土器

当てを行っています。

当センターでは大槌町や陸前高田市などから運ばれてきた文献資料の洗浄、考古資料の洗浄等を行っています。文献資料については、当センターで下処理をした後岩手県立博物館でその後の処理を行っています。

土器や石器の考古資料は洗浄・乾燥後わかる範囲で袋詰めしています。残念ながら元の袋からはぐれてしまったものも少なくないようです。県埋文センター以外の機関でもこうした作業をしていますので、最終的にどの程度残ったかはわかりません。ただ、多くの貴重な文化財が失われたことと思います。

今度の震災では人的被害が大きく埋蔵文化財行政に携わる方々も含めて多くの人命が失われております。あらためてご冥福をお祈りします。



回収した土器を洗う様子

発行 岩手県立埋蔵文化財センター
編集 (公財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185
電話 019-638-9001
E-mail i-maibun@echna.ne.jp
URL <http://www.echna.ne.jp/~imaibun/>
発行日 平成24年2月29日
印刷 河北印刷株式会社